

令和8年度 保育安全計画 つばみっ子保育園

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重要点検箇所	・緊急連絡先の確認 ・門扉、保育室、倉庫等の錠錠確認 ・遊具の点検	・SIDS ・散歩コースの安全確認 ・散歩車の安全点検 ・冷房設備の点検	・プール用具の安全確認 ・消防設備の点検	・熱中症予防対策 ・台風対策 ・防虫対策 ・避難バックの点検	・熱中症予防対策 ・台風対策 ・防虫対策	・熱中症予防対策 ・避難経路の確認 ・備品の安全確認
園児安全指導 乳児～ 3歳未満児	・遊具遊びや散歩時の事故防止 ・SIDS発生予防のため、年齢に応じた間隔で睡眠状況を観察・確認をする（特に慣らし保育中は気を付ける） ・一人ひとりの発達状態を把握し安全な環境を整える。 ・固定遊具の安全な使い方 ・交通安全指導			・熱中症対策 ・水遊び時の事故防止 ・保育室内から飛び出さない、室内では走らない等遊びの時間でも配慮が必要な事を教える。 ・水分や休息を十分にとり静と動の活動バランスに配慮する ・防虫対策を行う ・冷房器具を適切に使用する ・安全に夏の遊びが楽しめるよう一人ひとりの健康状態を把握する		
園児安全指導 3歳以上児	・道具や玩具、大型遊具の安全な使い方伝える ・散歩時の約束を確認 ・沖縄県警による交通安全教室等で、交通ルールを学ぶ ・体調の変化や怪我をした際に大人へ伝えるよう教える ・安全に過ごす為の生活や遊びのルールを知る ・車道い、うがいの大切さを学び実践する			・水遊び用の玩具の劣化等の確認 ・熱中症対策 ・水分や休息を十分にとり静と動の活動バランスに配慮する ・安全に夏の遊びが楽しめるよう一人一人の健康状態を把握する。 ・水遊びやプール遊びでの約束を伝える（走らない、プールの縁に立たない、飛び込み禁止等） ・地面について遊ぶを避く（地雷が記き危険、ダンゴ虫のポーズや「おかしもち」の約束）		
保護者安全 説明・共有	・入園前の重要事項説明書で園生活を安全に過ごすための決まり、約束の確認を行う。（登園の仕方、園児の引き渡しの仕方、出欠連絡、けが病気に関する連絡方法、災害時の対応等） ・乳幼児突然死症候群（SIDS)についての周知 ・駐車場でのルールの周知、共有			・乳幼児突然死症候群（SIDS)の再周知 ・水遊びに伴う健康管理 ・おたよりによる情報提供（食中毒、熱中症、プール熱等の夏に流行する感染症等への配慮） ・熱中症や台風等の注意報等の提示		
職員共有 研修講習	・虐待、事故防止及び事故発生時対応（園内実施） ・食物アレルギー（外部実施） ・アレルギー児の対応について（園内実施） ・衛生管理（外部実施） ・食中毒予防（外部実施） ・散歩時のマニュアル確認（園内実施） ・SIDS予防について午睡中の姿勢（仰向け）、呼吸、顔色など安全確認を5分～10分（年齢毎）毎に行い、コドモンに力入る。また①入園まもなくから1～2ヶ月頃まで、②生後6ヶ月頃まで、③病後児 の発生が最も多いので①②③は複数の保育者が観察するなど共通確認をする。			・救急救命講習（ニライ消防署による園内実施） ・熱中症予防（オンライン研修） ・衛生管理（オンライン研修） ・全職員自己評価（人権養護のためのセルフチェックリスト）の実施（園内実施） ・水遊びについて（園内実施）		
避難訓練等	火災	火災	火災、地震、園上訓練(地震)	火災 救急救命講習（ニライ消防）	火災、園上訓練(台風) 沖縄県広域避難訓練(地震・津波)	火災、不審者、北谷町津波避難訓練
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重要点検箇所	・玩具の点検 ・避難バックの点検	・散歩コースの安全確認 ・散歩車の安全点検 ・避難バックの点検	・散 ・消防設備の点検	・避難バックの点検	・固定遊具点検(業者) ・砂場熱処理	・備品の安全確認 ・次年度に向けての環境の整理整頓 ・次年度安全計画作成
園児安全指導 乳児～ 3歳未満児	・ニライ消防による避難訓練 ・机、椅子の使用方法確認 ・保育施設外活動時（散歩等）は、年齢や発達にに応じ、移動や目的地での安全に十分配慮する ・気温や活動に応じた衣服調節を行う			・気温や活動に応じた衣服調節を行う ・保育者と一緒に手洗い、うがいをできるようにする		
園児安全指導 3歳以上児	・ニライ消防による避難訓練 ・園外保育（散歩）の交通ルールや安全について知らせる ・遠足等でのバス利用時や公園遊びの安全について伝える ・健康管理や衛生管理について（爪のお手入れや手洗い等の大切さ等）			・豆類を耳や鼻に入れる等の事故を知らせ豆まきをする ・防寒の意味が分かり、身支度をする ・体を動かす事で体が温まることを知る ・健康に必要な生活の仕方を理解し、自分から進んで手洗いやうがいをする		
保護者安全 説明・共有	・定期健康診断の結果連絡、健康で安全な生活について意識を高める ・災害備蓄品について知らせる ・個人面談の実施			・事故防止ハンドブック（消費者庁）周知 ・園だよりを活用し、取り組み内容の周知を図るとともに、児童が安全に係るルール、マナー等を家庭で学ぶ機会を確保するよう保護者に依頼する ・新入園児面談		
職員共有 研修講習	・不審者（外部侵入者）対応に係る研修（防犯用品の使用方法など）（園内実施） ・ヒヤリハット共有、分析（園内実施） ・ニライ消防立ち合いでの避難訓練、消火器の取り扱い実演（園内実施）			・事故防止ハンドブック（消費者庁）の研修（園内実施） ・危機管理マニュアルの確認（園内実施） ・全職員自己評価（人権養護のためのセルフチェックリスト）の実施（園内実施）		
避難訓練等	火災	ニライ消防総合訓練 火災	火災	地震・火災・津波	火災	地震・火災

分野	策定期期	見直し（再点検）	予定時期	掲示・管理場所
重大事故防止マニュアル	R 8 年 4 月 1 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
□午睡	R 8 年 4 月 2 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
□食事	R 8 年 4 月 3 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
□プール・水遊び	R 8 年 4 月 4 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
□園外活動	R 8 年 4 月 5 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
□災害時マニュアル	R 8 年 4 月 6 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
□1 1 9 番対応時マニュアル	R 8 年 4 月 7 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
救急対応時マニュアル	R 8 年 4 月 8 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
不審者対応時マニュアル	R 8 年 4 月 9 日	R 9 年 3 月 3 1 日		保育室・事務室
社会福祉施設避難確保計画	R 8 年 4 月 1 0 日	R 9 年 3 月 3 1 日		事務室

○再発防止策の徹底【ヒヤリハット報告書を全職員へ回覧、園内研修にて再報告し、共有する】
○その他の安全確保に向けた取り組み【登降園管理システムを活用した安全管理等、連絡なしの欠席の場合保護者への確認の電話を入れる】

運動に関する指針				
気温（参考）	暑さ指数 （WBGT）	熱中症予防運動指数		活動の目安
3 5℃以上	3 1 以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。	外遊びしない 水遊びはOK（水温＋気温＝6 5 度未満）
3 1℃以上 3 5℃未満	2 8 以上 3 1 未満	厳重警戒 （激しい運動は中止）	熱中症の危険が高いため、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。1 0 分～2 0 分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人は運動を軽減または中止。	園庭、散歩OK（各年齢に合わせた時間にする。2 0 分以上は×）
2 8℃以上 3 1℃未満	2 5 以上 2 8 未満	警戒 （積極的に休憩）	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩を取り適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では3 0 分おきくらいに休憩をとる。	
2 4℃以上 2 8℃未満	2 1 以上 2 5 未満	注意 （積極的に水分補給）	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	
2 4℃未満	2 1 未満	ほぼ安全 （適宜水分補給）	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	

運動に関する指針

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針		活動の目安
35℃以上	3.1以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。	
31℃以上 35℃未満	2.8以上 3.1未満	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10分～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人は運動を軽減または中止。	園庭、散歩OK (各年齢に合わせて時間を決める。20分以上は×)
28℃以上 31℃未満	2.5以上 2.8未満	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。	
24℃以上 28℃未満	2.1以上 2.5未満	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	
24℃未満	2.1未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	